

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

第五十七番 栄福寺

本堂に箱車が奉納されています。体が不自由で犬に引かれて巡礼中当山に着き、犬が水を飲みに走った時、車が倒れて全身を打ち、病氣が治り奉納した車です。お大師様はいつも此の世に身を留めて人々に付き添い護って下さる事を信じ、お大師様の大きな心と一体となり巡礼を続けた後得られたご利益だったのです。外面菩薩顔で心は夜叉、他人の忠告も返事だけという迷いを除く心の修養で己の利を排し利他の修業が大師様の心と一体となるのです。それは先づ物を正しく見、正しく考えた後、人と語り、行動すれば、人の心を傷付けたり、言い争う事もなく常に大師と共に生きています。

四国霊場第五十七番 栄福寺

愛媛県越智郡
玉川町字八幡

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

四国巡拝ご苦労さまです

宮沢賢治の詩に

雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ 欲ハナク 決シテ瞋^{イカ}ラズ
イツモシズカニワラッテイル 一日に玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ アラユルコトヲ
ジブンヲカンジヨウニ入レズニヨクミキキシ ワカリ
私たちお遍路もこのような心で仏の国を巡拝したいもの

です

生かされて いるいのちだからいろいろな顔をするあなた
に手を合わせよう 二度とない人生だから どんな小さな
仕事にも わたしの力を尽そう

四国霊場第五十八番 仙遊寺 愛媛県玉川町
別所甲 483

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

同 行 二 人

四国八十八ヶ所へお参りしようと云いますが現在はお四国さんにお参りしよう、現在吾々の為御苦労下されて居ますお大師様、背中に南無大師遍照金剛と書し、金剛杖片手に念珠、至心に大師宝号を唱へる姿は尊いものです。昔は歩いて二ヶ月今はバスに依り巡拝、勿体無い事とは承知の上であります。お大師様の同行二人の御誓願により金剛杖はお大師様であり、影の形に添ふがごとく嬉しい時も、悲しい時も共にお大師様と二人づれ一人であつて二人づれ、金剛杖は宿泊の時は杖の土を洗ひ床に置く同行二人の御精神はへんろに依つて味会ふのであります。御遠忌の年の巡拝を意義あるものにして下さい。

四国霊場第五十九番 国 分 寺

愛媛県今治市
国分 甲520

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

坂道

当山へお大師様が巡錫の時、今日皆様が登山された坂道を下り、石鎚山に登り帰つて来る時、日は暮かゝり汗は流れ、しんどいなあ、この（業）郷（部落名）のモエ坂よなあ、と言われた坂道です。内（身体）から外（自然熱）から燃えて、汗なしでは登れない坂道です。現在の人々は足を使用する事が少なく、しんどいから不平を言う。信仰は不平不満では出来ない、有難いと感謝する人には、辛抱があります。難儀してこそ幸福が得られるのです。字に書いて「有難」となります。人生の浮沈も例えに、坂とか峠とか言われるのです。遍路さんも辛抱して坂道を頑張つて下さい。

四国霊場第六十番 横峰寺 愛媛県周桑郡
小松町石鎚

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

真言宗の両部大經の一つである大日經に説く「菩提を因とし、大悲を根とし、方便を究竟と為す。」を金言と致しております。

即ち生きとし生けるものの最高の理念であるお悟りを志求する道念、道心を見失はずに土台によく考えて、大きな慈悲即ち親心を根本において何時もよく思つて、自分の取組む問題を、その時機、その場所において、最善の解決方法を考え出すことを至極とすることあります。

四国靈場第六十一番 香園寺 愛媛県周桑郡
小松町南川

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

牛の尾に うなぎ食いつき

蛇だらり まだ短くば

細紐を 繼げ

細く長く、あせらず、たゆまずあたかも流水の間断なきが

如く続ける努力が成功をもたらす根本なりとの意味です。

四国八十八ヶ所のお遍路を志す者は、このことを忘れない

様に順拝いたしましょう。

四国霊場第六十二番 宝寿寺 愛媛県周桑郡
小松町428

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

の
で
す。

煩
ぼん

惱
のう

一〇八の除夜の鐘は、私達の心やからだを悩ませる“煩惱”的の数です。根本的にはむさぼり（貪）怒り（瞋）おろか（痴）おごり（慢）うたがい（疑）、悪見の六煩惱があります。この苦しみから逃れるためには、むさぼらず、怒らず、賢明になり、しかもおごり高ぶらず、人を疑わないことを肝に銘じておくことが第一です。お釋迦さまは煩惱に苦しんだからこそ煩惱を自覚し冥想し悟りの道に入られたのでしょうか。お互に、自分をよく自覚し、迷いや苦しみをひとつひとつ克服する中で、豊かな人間に成長したいものです。

四国霊場第六十三番 吉祥寺 愛媛県西条市
水見乙 1048

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

田畠は雑草によつて損はれ、人は貧欲によつて損はる。

(法句経)。

田畠を作るものにとつて、若しも雑草がなかつたらこんな樂なことはありますまい。だがよく考えてみると雑草も育たない様な所によい稔りが期待できる筈がない。とすればやはり田の草取りに汗を流し雑草をも肥しに転じてこそよい稔りが得られるのであります。人間という田畠に於ても事情は同じことで、經論に説く如く人間には本来仏性といふものがあり乍ら煩惱と呼ばれる雑草に覆はれて顯現し難いのであります。田の耕作が良い実りを得る為の雑草との斗いである様に我々人間も仏性の顯現の為に煩惱という雑草を取り除きこれを克服することが必要なのであります。

四国霊場第六十四番 前 神 寺

愛媛県西条市
州之内甲 1426

<四国八十八ヶ所霊場会発行>